

1 はじめに

本校の「総合的な学習の時間」では、作業的・体験的な活動を通して、自ら学び、自ら考え社会の変化に主体的に対応できる態度や能力を育成することを目標にしている。

学年のテーマは、“日立発”を意識し、日立の町の良いところや環境など広い範囲から、自分の身近な問題として捉えられるよう計画されている。

【各学年の学習テーマ】

3 学年	テーマ：「日立市のじまんをみつけよう」 日立の海や山、工場、店などを観察したり調べたりする。
4 学年	テーマ：「ぼくら環境見守り隊～助川小から日立の環境を見つめよう～」 助川小の木々やビオトープを調べ、環境について考える。
5 学年	テーマ：「あたたかい心を届けよう～支え合って生きている～」 体が不自由な方の気持ちになって、アイマスク体験や車いす体験をし、自分たちができることを考える。
6 学年	テーマ：「SUKEGAWA 発見！自分発見！」 日本文化に触れ、体験することにより、日本の良さを再発見する。 自分の長所を見直し、将来の夢を考え、将来設計をする。

各学年の様々な学習活動では、校外学習で話を聞いたり、GT に支援を頂いたりしている。以下、4 学年の実践を中心に述べていく。

2 「総合的な学習の時間」学習計画

(1)【学習計画（一部）】

	学習計画	主な学習内容
つかむ・調べる	テーマ：「助川小の樹木マップを作ろう」	
	○オリエンテーション	・ 1 年間の学習の流れを知る。
	○お気に入りの木を見つけよう	・ 学校に植えてある木の中から、気に入った木を見つけ、スケッチする。
	○樹木マップを作ろう	・ 助川小の樹木マップを作るために、樹木の名前を調べたり、スケッチしたりする。
	○ビオトープに住む生き物について調べよう	・ ビオトープに住む生き物を調べる。 ・ 何を食べているのか調べる
	○助川小の五代桜について調べる。	・ 五代桜から日立のさくら祭りについても調べる。

ふれる・体験する	テーマ：「日立のさくら祭りについてその歴史を調べよう」	
	○日立は桜がなぜ有名になったのだろう。	・日立の歴史を調べる。 ・大煙突があったこと、日立鉱山があったこと、工場を設立して大きく成長させた人物、煙害があったことなどを本やパソコンで調べる。
	○日立風流物について調べる。	・日立風流物について、人形のからくりや、伝統を伝えていくことの大切さについて学習する。

- (2) 理科の学習・・・テーマ「ぼくら環境見守り隊～助川小から日立の環境を見つめよう～」：助川小に植えてあるたくさんの木々を観察しスケッチしたり、木々の名前を調べたりするとともに、ビオトープに生息する生き物についても調べる。



樹木マップ



子供たちが描いた木のスケッチ

- (3) 社会科・・・日立の環境を調べるにあたり、なぜ日立は桜が有名になったかという歴史を知ること、深く環境に関われるようにする。

久原房之助さんと小平浪平さんはすごいなあと感心した。
大煙突はささいしよ、155.7m だったこと
はじめて知った。
日立製作所の
日立製作所は30,000本なんすごい量たなと
思った。
日立製作所を作った人はなんと36,840人。

子供のワークシート

【百足煙道とだるま煙突】

日立鉱山の製錬所の煙は、はじめは八角形煙五連の24メートルの高さの煙突から排出されていきました。その後、煙害に悩まされ、1911（明治44）年に長さ約161メートル、神峰山の山頂をうねうねと這い上がる神煙（百足）（むかで）煙道を築きました。これは、途中の十数か所に排煙口を設けて分散排煙するもので、日立鉱山の排煙者たちの苦悩の歴史でもありますが、失敗に終わりました。



日立の歴史を知ろう

1905(明治38)年、久原房之助は「日立鉱山」を創業し、近代的な鉱山の経営に乗り出しました。日立鉱山の名前は所在地である「日立村」に由来します。日立製作所は、小平浪平が5馬力モーターを作ったことから発展した。



日立の八柱大

日立の八柱大

3 成果と課題

環境というと、ごみ問題や、エコなど広い範囲で捉えがちであるが、身近な自然を観察したり調べたりしたことで、以前より自分が住む地域や日立市の山や川等の自然に興味をもって深く調べる態度が育ったことが大きな成果である。また、さくら祭りについても、その歴史を知り、「自分たちの町を大切にしたい」とか、「自然を大切にしたい」という気持ちがもてた。今後は、まとめや発表に力を入れたい。



樹木のスケッチ